

【実践報告3】

－異学年交流や幼保小連携を生かした実践を通して－

1 対象集団の状況

21年4月に入学した1年生は60名、22年4月に入学した1年生は61名で、通常学級2学級及び特別支援学級に入級している児童が若干名いるという内訳である。

出身幼稚園・保育園は、およそ半数がA保育園で、次いでB幼稚園・C幼稚園・D幼稚園が主なところである。

昨年度より、1年生を含め本校には不登校児童はいない。男女分け隔てなく遊ぶことができる児童が多く、人間関係のトラブルも少ない。

しかし、粗暴な性格で、少し気に入くないことがあると手が出たり足が出たりする児童や、教師の指示に従わず席を離れたり勝手なことをしたりする児童がおり、保護者との面談も重ねてきた。

2 実践内容

(1) 実践の方法

ア 学級・学年での活動

グループ・アプローチの実践を中心に、学級単位で、あるいは活動内容に応じて学年で活動する。その際、特別支援学級の児童ともできるだけ交流する。

また、各教科や道德などの内容で、学校適応にかかわるものについては年間計画にも組み入れ、グループ・アプローチと関連付けて指導していく。

イ 1年生と6年生のペア活動

本校では、児童会活動の一環としてペア活動を行っている。1年と6年、2年と4年、3年と5年がペア学級を組み、一緒に掃除をしたり遊んだりする。

また、来年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、本校の「総合的な学習の時間」を見直し、「人」「環境」「興味・関心」を学習対象とした全体計画を立てた。特に6年生は、1年生とのペア活動の計画・実施・

反省を総合的な学習とリンクし、時間をかけて取り組んでいくことにした。1年生が入学して間もな

【本校の「総合的な学習の時間」全体計画表】

平成22年度 総合的な学習の時間の全体計画				
学校教育目標：健康でやる気に満ち、実践力のある子の育成				
【めざす児童像】 すくすく さらさら 語っ子 やましい子 かしい子 たくましい子	本年度の重点的取組 ① 基礎学力を高めよう。② 読書や調べ学習を通して、自ら学ぶ力を育てよう。③ 地域や社会とのかかわりを通して、協力的な態度を育てよう。④ 異学年交流を通して、協力的な態度を育てよう。			
各教科・道徳・特別活動との関連 ① 生活等の学習内容との関連 ② 言語活動を始めた場 ③ 学習方法を活用する場	家庭や地域との連携 ① 学習発表会等や家族へ発表 ② ゲストティーチャーの活用 ③ 公共施設・福祉施設との活用 ④ 校区への調査活動			
本校の総合的な学習の時間				
【学習対象】 人・環境・興味関心				
① 様々な「人」とのかかわりを通して、自己の生き方を考え、よりよく生きようとする心情や態度を育てる。 ② 私たちを取り巻く「環境」についての探究的な学習を通して、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決する力とともに、よりよい生活を創り出そうとする心情や態度を育てる。 ③ 自らの「興味関心」に基づく問題について、多面的に追究し解決する方法を身に付けさせる。				
	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
学びの場	学校	地域	日本・世界	日本・世界
培いたい学び方	見通しをもって計画を立て、仲間と協力して学習する。		広い視野に立って考え、自他のよりよい関係を築こうとする。	
各学習対象における目標・内容	人 学校や地域の様々な人々とのふれ合いを通して、まわりの人に愛着をもたせ、学校や地域を大切にしようとする心情を育てる。 3年・地域の老人との交流 4年・地域の職人との交流		様々な人の生き方に触れることを通じて、自分の生き方を考え、家族や地域の人々、日本や世界の人のために役立つようとする実践的態度を培う。 5年・社会貢献している地域の方を取材 6年・オリジナルの卒業アルバム制作	
	環境 調査や話し合いを通して、学校や地域の環境を大切に、住みよい環境を自らの手でつくるようとする心情を育てる。 3年・学校の花を育てる 4年・地域の宝物調べ		探究活動や社会体験を通して、地域に住む人や世界中の人が安全に生活できる環境になるよう、自分ができることをしようとする実践的態度を培う。 5年・バリアフリーについて調べる 6年・ボランティアについて調べる	
	興味関心 自分たちで選んだり発見したりした問題について、グループで協力しながら解決する力を育てる。 3年・総合的な学習入門 4年・グループ研究		自ら発見した問題について、今まで培った学び方を駆使して、個人で解決する力を育てる。 5年・食について調べる 6年・卒業研究	
	年度の企画や準備、運営をどう行うかという課題解決を通して、集団への所属感や連帯感を高めるとともに、主体的、創造的、協同的に活動する態度を育てる。 4～6年・わんぱく祭り			
評価の観点	① 学習方法に関すること ○課題設定能力：テーマに興味や関心をもち、課題を発見し設定することができる。 ○情報収集活用能力：課題に対してさまざまな方法で調べ学習を進めることができる。 ○表現や発信の能力：相手や目的に応じて分かりやすくまとめたり、発表したりすることができる。 ② 自分自身に関すること ○主体的な態度：課題解決のために進んで活動することができる。 ○自己の生き方の自覚：自己の将来を考え、夢や希望をもつことができる。 ③ 他者や社会とのかかわり ○協同的な態度：他の人々と関わり、協力して学習することができる。			
評価の方法	① 評価の観点や評価規準に基づき、児童の学習状況をみる。 ② 児童のワークシートや作文等をファイリングし、ポートフォリオ評価を活用する。			

い頃に、学校を案内してあげたり、遊具の使い方を教えてあげたりと、人とのかかわりを重視した実践を行っていく。

ウ 幼稚園・保育園・児童館との連携

入学前に、各幼稚園・保育園から就学児童の実態把握をすることは従来から行ってきたが、入学して1ヶ月ほど経過後、1年担任と園との懇談会を行い、児童の指導方法について助言をもらうことにした。

また、多くの1年生が通っている児童館の職員との懇談会を開催し、情報交換することを昨年度より始めた。

園児に学校に慣れてもらう機会として、運動会のプログラムに園児の競遊を組み入れたり、3月に1年生と交流する会を計画したりすることにした。

(2) 年間計画

月	週	学級・学年での活動	1年生と6年生のペア活動	幼稚園・保育園・児童館との連携
3	第1週		通学班班長が新入生の家を訪問する。	保育園児の小学校訪問
4	入学式	担任との顔合わせ	入学式での世話	
	第2週	グループ・アプローチ① 「1・2・3」	1年生のためにできることを6年生が話し合い実践する。	
	第3週	体育「体育館探検①」 グループ・アプローチ② 「出会いのあいさつ」 「じゃんけんお巡りさん」		
	第4週	グループ・アプローチ③「あくしゅであいさつ」	遠足予備日に弁当を一緒に食べる。	
5	第1週	体育「体育館探検②」 グループ・アプローチ④ 「猛獣狩り」		1年担任と前年度園の担任との情報交換
	第2週	生活「じぶんでたんけん」 グループ・アプローチ⑤ 「じゃんけんゲーム」		
	第3週	道徳「愛校心 おたのしみかい」 グループ・アプローチ⑥ 「先生とビンゴ」		
	第4週	グループ・アプローチ⑦ 「じゃんけんぽん／けんけんぱ」 (じゃんけんお巡りさん) グループ・アプローチ⑧「あくしゅであいさつ」		
6	第1週			
	第2週	道徳「規則の尊重、公德心 ぶら	2週間一緒に清掃を行	近接の児童館との

		んこ」 グループ・アプローチ⑨ 「さいころトーキング」	う。 ↓	情報交換会を開催
	第3週	体育「表現リズム遊び」 グループ・アプローチ⑩ 「じゃんけん汽車」	↓	幼保小連絡会を開催
	第4週	道徳「礼儀 おはよう」 グループ・アプローチ⑪ 「あくしゅであいさつ」		
7	第1週		プールで一緒に遊ぶ ↓	
	第2週	誕生日給食 グループ・アプローチ⑫ 「集合ゲーム」	↓	
	第3週	道徳「生命の尊重 ふしぎだな」 グループ・アプローチ⑬ 「あくしゅであいさつ」	↓	
8	夏休み			本校職員が児童館訪問
9	第1週	道徳「勇気 おんがくかい」 グループ・アプローチ⑭ 「集合ゲーム」		
	第2週	誕生日給食 グループ・アプローチ⑮ 「フルーツバスケット」 グループ・アプローチ⑯ 「いすとりゲーム」		
	第3週	道徳「感謝 ありがとう」 グループ・アプローチ⑰ 「ふわふわ言葉とチクチク言葉」 グループ・アプローチ⑱ 「あくしゅであいさつ」		運動会で、本校へ入学予定の園児による競遊種目を開催
10	第1週	道徳「正義、誠実・明朗 うそつき きつね」 グループ・アプローチ⑲ 「カードめくり」	運動会予備日に弁当を一緒に食べる。	
11	第4週		わんぱく祭りで店の運営や店巡りを一緒に行く。	

(3) 実践

ア 1年2クラス・特別支援学級合同「猛獣狩り」

(ア) ねらい

- ・ ゲームをしながら、人間関係づくりをしていく。
- ・ 年度当初に行うため、隣のクラスの児童や同じ階に教室がある特別支援学級の児童（1～5年児童5名）とも顔なじみになるようにする。

(イ) 内容

- ・ リーダー（教師）が歌った後、全員で同じことを唱える。

リーダー「猛獣狩りに行こうよ」	全員「猛獣狩りに行こうよ」
リーダー「猛獣なんかこわくない」	全員「猛獣なんかこわくない」
リーダー「鉄砲だって持ってるぞ」	全員「鉄砲だって持ってるぞ」
リーダー「ヤリだって持ってるぞ」	全員「ヤリだって持ってるぞ」

- ・ 「あっ」「あっ」指を指して元気よく言う。
- ・ リーダー 動物の名前を言う。例えば「ゴリラ」なら3文字なので、3人組をつくり、できたグループから座る。
- ・ 児童に指示したこと
なるべく同じ子と何度もグループにならないように、1回の集合が終わったら歌を歌いながらバラバラになるようにした。

(ウ) 児童の様子

60名以上の多くの児童で行ったが、いろいろな子とグループを組むことができ、児童はとても楽しそうだった。特別支援学級の児童はルールが理解できない子もいたが、教師の付き添いのもと、グループづくりに参加することができ、楽しく活動ができた。振り返りでも「楽しかった」と、一言ではあるが、感想を述べることができた。

一方、グループを組まないで体育館を走りまわることを楽しむ児童が数名いた。ルールを理解できなかったわけではなく、他とのかかわりより、自分の楽しみ方を優先する児童である。集合ゲームは友人関係や児童の性格・行動が表面化しやすく、とらえやすい。

(エ) 課題

なるべく同じ子ばかりとグループにならないようにし向けたが、「猛獣狩り」のようなエンカウンターでは、

1年児童は顔なじみの子どうしでペアやグループになろうとするので、何か工夫が必要である。

今回は総勢65名ほどいたので体育館で行ったが、場所が広すぎた。コミュニケーションがとりやすい適当な広さを考えないと、ねらいがぼけてしまう。

イ 1年1組 「フルーツバスケット」「いす取りゲーム」



【猛獣狩りの様子（上下とも）】

(ア) ねらい

- ・ 席を繰り返し移動することで、いろいろな子と隣り合って座ったりコミュニケーションをとったりする機会とする。
- ・ ルールを守って楽しくゲームをすることで学級の和を高める。

(イ) 内容

- ・ ゲームの約束を学級で話し合う。
- ・ フルーツバスケットでは、果物が描いてあるカードを児童一人一人に配布する。例えば、「ブドウ」とコールがあれば、「ブドウ」のカードを持った児童が席を離れ、違う席を探す。「フルーツバスケット」のコールは全員が席を離れる。
- ・ いす取りゲームでは、運動会の表現運動に使用した音楽を流し、音楽が止まったらいすに座るようにする。



【フルーツバスケットの様子】

(ウ) 児童の様子

フルーツバスケットの振り返りでは、「みんなが動くところが楽しかった」「友達といすにすわる競争が楽しかった」という意見が出された。



【いす取りゲームの様子】

また、いす取りゲームの振り返りでは、「いすを争うところが楽しかった」「いすを取られてくやしかったけど楽しかった」という意見が出された。

いす取りゲームでチャンピオンになったのは、クラスで1番粗暴な男子児童であった。最後に女子児童と2人が残ったが、その男子児童への応援の声が多く、意外な感じがした。

(エ) 課題

教室では狭く、隣の席との間隔も十分とれなかったので安全面からすると、もう少し広い場所でやる方がよい。

また、ゲームに集中しすぎて、隣同士で座る児童とのコミュニケーションというねらいがぼやけてしまった。

ウ 6年総合「レッツゴー！ボランティア」

(ア) ねらい

自分の生き方について考え、地域や世界の人々のためにできることをしようとする実践的態度を培う。

(イ) 主な学習活動

- ・ 6年生として、1年生に何かしてあげることはないか話し合う。

(例) ・ 遊具の使い方を説明し、一緒に遊ぶ。

・ 学校の案内をする。

- ・ ボランティアについて知る。
- ・ 地域のボランティア団体の方から話を聞き、自分たちができそうなことを立案する。
- ・ 自分ができそうなボランティア活動についてくわしく調べる。
- ・ 調べたことを発表する。

- ・ 活動の振り返りをする。
- ・ 特別養護老人ホームを訪問する計画を立て、お年寄りと交流する。

(ウ) 児童の様子

- ・ 6年生は、5年生までのペア活動の経験があるので、1年生との交流について自分たちで計画したり準備することができた。
- ・ 6年生としての始めの総合的な学習となるので、「1年生にしてあげられること」という取り組みやすい課題を設定したことはよかった。
- ・ その後、地域の老人ホームへ出かけたり、ボランティア団体の調査活動をした6年生にとっては、活動の導入としては適したものとなった。
- ・ 6年生の活動後の感想には、1年生や老人といった、いろいろな世代の人との交流では、応対の仕方を考えることで一緒に楽しめることが分かったというものが多かった。
- ・ 1年生は通学団で一緒に6年生ぐらしか面識がないので、交流が始まったときは照れくさそうにしていたが、徐々に雰囲気慣れ、仲良く遊ぶ姿が多く見られた。
- ・ 1年生の振り返りでは、「また遊ぶ約束をした」「たくさん名前を覚えた」「また一緒に何かやりたい」という意見が多かった。

(エ) 課題

- ・ 活動がグループ別になってしまうので、児童の行動範囲が広がってしまい、教師が児童の把握をやりきれなかった。特に、遊具等を使うグループもあるので安全面の配慮がより必要である。

エ 6年総合「わんぱく祭り」

(ア) ねらい

店の企画や準備、運営を通して、集団への所属感や連帯感を深めるとともに、主体的、創造的、協同的に活動する態度を育てる。

(イ) 主な学習活動

- ・ 祭りの意義を考える。
- ・ 学級のテーマを話し合う。
- ・ 個人やグループのめあてを話し合う。
- ・ 出し物について話し合う。
- ・ 必要な道具や役割分担、1年生とのかわり方など話し合い、計画書を作成する。
- ・ 計画に則って準備をしたり、リハーサルを行う。
- ・ 祭りを終えた反省を書き、発表し合う。

(ウ) 児童の様子

- ・ 6年生は店の準備や運営に加えて、1年生の世話もしなければならず忙しいが、上学年の自覚をもって活動することができた。
- ・ 1年生も6年生が運営する店の簡単な手伝いをさせてもらえるため、いろいろとやりたがる1年生にとっては楽しい活動となった。
- ・ 1年生の振り返りでは、「6年生がやさしくいろいろ教えてくれた」「自分たちでも、ゲームなど楽しいことを考えてみんなと遊びたい」といった意見がほとんどだった。

(エ) 課題

- ・ 1年生を景品作りや店の準備等にもっと参加させることができれば、より祭りを楽しんだり、

1年生なりの成就感をもたせることができるはずである。

- ・ 単なる遊びに終始せず、総合的な学習の時間のねらいに相応するよう、計画や準備の時間の使い方を考えていきたい。

オ 児童会活動としてのペア活動

本校では、上記のような総合的な学習の時間を使った、1年生と6年生の交流のほかに、年間を通して定期的に交流（本校では「わんぱく活動」と呼んでいる）を行っている。2年生は4年生と、3年生は5年生とペアを組んでいる。

遠足や運動会の予備日は弁当持参のため、運動場や広場にシートを敷いて、一緒に弁当を食べる「ペア会食」や、下学年のプール指導に上学年が入り、一緒に水遊びをする「ペア水遊び」などを行っている。また、2週間ほどの期間の清掃を一緒に行う「ペア清掃」も学期に1度ずつ行っている。

特に1年生は、6年生との「わんぱく活動」をととても楽しみにしており、顔見知りも増え、普段の放課でも1年生と6年生が一緒に遊ぶ場面をよく見かける。

カ 幼稚園・保育園や児童館との連携

- ・ 入学式のおよそ1ヶ月前に保育園園児と1年生との交流会を行っている。21年度は、教室で1年生が「小学校の1年間の思い出」を園児に向けて発表した。その後、体育館でグループに分かれ、自己紹介をしたりハンカチ落としをしたりして楽しんだ。最後に全員でエクササイズ「じゃんけん列車」を行った。また、保育園園児は、10月の運動会にも招待し、簡単な競遊演技に参加してもらっている。

- ・ 1年生は5月の連休明けぐらいには学校生活に慣れる反面、緊張感が薄らぎ問題行動が出てくる。集団行動から外れてしまったり学習の理解が遅れがちな児童の出身保育園に担任と教務主任が出向き、昨年度の担任と指導方法についてアドバイスをもらいに行っている。

- ・ 6月に、学校と隣接している児童館との懇談会を行っている。特に1年生の児童が児童館を利用することが多いことから、21年度より始め、特に1年生の状況について情報交換をすることにした。また、夏休みに本校職員が児童館を定期的に訪問し、遊ぶ様子などを見せていただくようにしている。

- ・ 6月には幼保小連絡会も開催している。四つの幼稚園・保育園の先生が来校し、1年生の授業参観を行った後、児童について情報交換を行っている。小学校からは3学期に教務主任が各園を訪問し授業見学したり、先生方との懇談を行ったりしている。



【ペア会食（上） ペア水遊び（下）】



【1年生と園児の交流会】



【園児とじゃんけん列車】

3 考察と課題

(1) 考察

- ・ 22年度の適応度調査の結果をみると、設問1～4の全国平均に比べ、概ね良い結果が得ることができた。特に、設問2「わたしはみんなとなかよくできる」では、96.6%の児童が「できる」「ときどきできる」と答え、全国平均の85%よりもよい結果となった。設問5～6においても、21年度よりも22年度の方が良い結果となっている。
- ・ 入学当初は出身幼稚園・保育園同士の児童で行動することが多いので、少数の出身の児童は孤立する傾向がある。入学当初からグループ・アプローチの実践をしていくことが大切である。また、その折には特別支援学級の児童も、なるべく参加させたい。ルールを理解は難しいところがあるが、教師の付き添いのもと、多くの子とかかわりをもたせたい。
- ・ 学年全体でのグループ・アプローチは、場所が広くなるため收拾がつかなくなるのが分かった。年度当初は、教室でできるクラスごとのエクササイズが望ましい。
- ・ なるべく簡単なルールにするための準備も必要である。フルーツバスケットで果物カードを作っておいたのは有効だった。
- ・ 1年生と6年生のペア活動は、1年生の学校適応に有効である。ただ単に遊ぶだけでなく、清掃や祭りの運営を一緒に行うことは、6年生にとっても上学年としての自覚が向上することにもつながっている。
- ・ 幼稚園・保育園・児童館との連携は今後も積極的に行っていく予定である。職員間のつながりをもつことや、それぞれの教育方針や体制を互いに理解することにつながっていくからである。

(2) 課題

- ・ ファシリテーターは担任にやってもらったが、教務主任や校務主任も含め、教師がファシリテーターの育成の研修に参加し、手慣れた手順でできれば、その方がより効果が上がる。
- ・ 道徳の時間にグループ・アプローチばかり実践するのは、道徳のねらいと離れていくことになりかねない。道徳や学級活動、総合的な学習の時間のねらいとグループ・アプローチのかかわりを整理していきたい。

【適応度調査結果】

